



大阪市北区天満橋 1-8-75 桜ノ宮合同庁舎

TEL 050-3160-6763

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>



雪化粧の船通山（船通山国有林：島根県）

新年のご挨拶：近畿中国森林管理局長

トピックス：奥能登地区における民有林直轄治山事業の取組
(石川森林管理署 奥能登地区山地災害復旧対策室)

ニュース：島根森林管理署、森林技術・支援センター、鳥取森林管理署

花草木：マンリョウ

我が署のスタッフ：島根森林管理署

森林事務所等紹介：高島森林事務所（滋賀森林管理署）

国有林最前線：奈良森林管理事務所



謹 賀 新 年



新年のご挨拶 近畿中国森林管理局長 高橋 和宏

新年明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては新年を迎え、ますます御清祥のことと心よりお慶び申し上げます。



昨年、弊局管内では、能登半島地震及び奥能登豪雨による大規模な自然災害により甚大な被害が発生しました。亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに被災された方々にお見舞いを申し上げます。弊局としましても、関係機関と連携し、一日も早い復旧・復興に向けて全力で治山対策等に取り組んでまいります。

近年、気候変動に伴って豪雨等による災害が頻発化・激甚化する傾向がみられる中、弊局では、地域の皆様の暮らしを守るべく、防災・減災、国土強靱化のための森林整備や治山対策に着実に取り組み、災害に強い森林づくりを進めてまいります。

また、気候変動の対策として、温室効果ガスの吸収源としての森林の役割が期待されています。国有林野事業では、2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、間伐等の森林整備のほか、主伐後の効率的・効果的な再造林手法の実証・普及に努めてまいります。

国有林では、森林・林業施策全体の推進に貢献するため、民有林経営への普及を念頭にした林業の省力化・低コスト化等に向けた技術開発に取り組んでおり、弊局では、下刈り実施方法の見直し、獣害の防除対策の低コスト化に向けた取組を強力に推進しております。こうして得られた成果は、管内の森林管理署等で開催する現地検討会等を通じて民有林関係者の皆様へ普及等を行っており、昨年11月には、岡山県内においても地域の喫緊の課題である「再造林に向けたシカ被害対策」をテーマに現地検討会を行い、地域課題の再認識や技術交流を図る有意義な機会となったところで。

弊局では、公益重視の管理経営を一層推進するとともに、林業の省力化や低コスト化等に資する技術開発・実証や森林・林業・木材産業に関する情報発信を通じて、地域貢献できるよう取り組んでまいりますので、国有林の事業運営に対する一層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

今年は、大阪・関西万博の開催年でもあります。（毎年、開催しているイベント「水都おおさか森林（もり）の市」にミyakumyakが参加いただきました）

皆様にとって一層明るく、健康な年となりますことを御祈念申し上げ、新年の御挨拶とさせていただきます。



森林（もり）の市 2024 でミyakumyakと高橋局長

奥能登地区における民有林直轄治山事業の取組 ～豪雨災害を踏まえて～

【石川森林管理署】

1 はじめに

能登半島地震から8カ月余りが経過し、生活再建に向けて次なる歩みを始めていた9月半ば、更なる追い打ちをかける豪雨が奥能登を襲いました。地震で多くの方々が犠牲になられ、またも多くの尊い命が失われました。お悔やみとともに、今もなお避難生活を余儀なくされている皆様に対し、心からお見舞いを申し上げます。

奥能登地区山地災害復旧対策室では、豪雨後速やかに被害把握をするためにヘリ調査を実施しました。輪島市町野町、珠洲市大谷町、能登町黒川、輪島市門前町、輪島市尊利地（そりぢ）町、輪島市鳳至（ふげし）町において崩壊地等からの土砂流出のほか、一部で新たな土砂ダムが発生するなど、更なる災害発生が懸念される状況を確認しました。

2 事業地における甚大な被害

輪島市町野町では河川氾濫が多発し、上流に位置する大久保区域は目立った崩壊地の拡大こそなかったものの、地震によって発生した倒木を処理するための拠点であるヘリポートが被災し、利用できないなどの影響が生じました。

(写真-1、2)



(写真-1：被災前のヘリポート)



(写真-2：被災後のヘリポート)

珠洲市大谷町は土砂の流出がひときわ目立ちました。家屋は1階が埋まり、道路がどこにあったのか判らないほどの量でした。(写真-3、4)



(写真-3：大谷町の崩壊土砂)



(写真-4：大谷郵便局)

連日応急対策の検討、関係機関との調整、住民説明会と対応が続く中、北陸地方整備局による道路の緊急整備が順調に進んだことを受け、奥能登地区山地災害復旧対策室では、11月から大型土のうの設置を開始し、翌年度の梅雨前を目標に土砂の流出を防ぐための施設のほか、ヘリコプターによる種子散布などの対策工事を行うこととしました。

輪島市鳳至（ふげし）町の鳳来山（ほうらいざん）公園は、春に桜が咲き誇り、秋には紅葉が楽しめるほか、園内には句碑や歌碑が多く、地元のシンボルとも言える場所でしたが、地震で崩れた山肌が豪雨によって大きくえぐられ、その姿を変えました。近接する住宅へ地震では持ちこたえた土砂が押し寄せ家屋が損壊するなど、甚大な被害を受けました。

当該地は、対策を進めている区域の中でも特に住宅が近接しており、速やかな復旧、監視体制の充実とともに市をはじめ関係機関との緊密な連携が求められています。また、頂上付近には昭和天皇お手時の杉もあり、特に配慮が必要となっています。（写真-5、6）



（写真 - 5 : 地震後、豪雨前の奥津姫神社）



（写真 - 6 : 豪雨後の奥津姫神社下方）

3 住民説明会の開催

珠洲市においては市長出席のもと、豪雨災害以降4回に渡り住民説明会が開かれました。宅地や農地に大量の土砂が流出するなど、各地区とも極めて深刻な状況にあり、生活に直結する道路、水道に関する要望が多く寄せられました。

事業地付近の住宅は、復旧まで2～3年を要する「長期避難世帯」の認定を受けることとなり、該当の世帯への生活再建に向けた支援制度が適用される運びとなりました。（写真-7、8）



（写真 - 7 : 住民説明会／珠洲市大谷町）



（写真 - 8 : 概要説明／珠洲市大谷町）

輪島市では、今般の豪雨災害を受け、石浦町及び海士（あま）町において、再検討した復旧対策、監視体制に関する説明会を改めて開催しました。「地震で被災した住宅のリフォームも終わり、元の生活を取り戻そうとした矢先の大雨で再び被災した」など、多くの切実な声を耳にしました。地震後の応急対策で設置した大型土のうも原型を留めない姿となりました。両町とも工事内容への異論はありませんでしたが、生活に直結する要望が多く出されました。（写真 -9、10）



（写真 - 9：住民説明会／珠洲市大谷町）



（写真 - 10：概要説明／珠洲市大谷町）

4 関係機関等との調整

豪雨災害の発生以降、住民への情報提供の重要度が更に高まっており、関係機関等と WEB を積極的に活用し迅速な情報共有に努めています。珠洲市大谷町では、山地以外にも道路などのインフラ復旧が急がれる状況となって



（写真 -11 ヘリにより種子等を散布／珠洲市大谷町）



（写真 -12 散布後）

います。このため、国、県及び市との合同打合せが継続的に開かれ、応急対策の進捗状況などを報告しています。行政が一体となった対応を進めることが重要と考えます。（写真 -11、写真 12）

5 本格的な復旧に向けて

事業を開始した令和 6 年 4 月時点では珠洲市 1 区域、輪島市 3 区域の全 4 区域でしたが、県からの要望を受け、珠洲市 1 区域、輪島市 1 区域が追加となり、全 6 区域となりました。極めて稀な同一年での二重災害が発生したことにより復旧までには長い期間が見込まれます。冬本番を迎え積雪による影響も心配されるところですが、全国各地から派遣されている職員の知識・技術・経験を活かしながら、奥能登地区山地災害復旧対策室のモットーである「地域に寄り添う」を念頭に一日も早い復旧・復興に向け、全力で取り組んでまいります。

（奥能登地区山地災害復旧対策室）

日原小学校にて★★クリスマスリース作り★★

【島根森林管理署】

令和6年12月2日（月）に津和野町立日原小学校において、学童保育児童14名を対象とした「森林教室」と森林からの恵みを利用した「クリスマスリース作り」を開催しました。

はじめに、職員が紙芝居「木材のヒミツ」を演じました。主人公の「ハルヒ」が小さくなって、机の上で木材のヒミツを探る冒険を描いたものです。子どもたちへの問いかけに、みんなが元気よく発言し、双方向の紙芝居になりました。



紙芝居を真剣に聞く児童

その後、どんぐりや松ぼっくりなどの材料を使ってクリスマスリースを作りました。子どもたちは、友達との会話を楽しみながら、「松ぼっくりがなかなかくっつかない」と苦労しながらも、思い思いにリースに飾り、一人ひとりが一生懸命に自分だけの手作りのクリスマスリースを作り上げました。「家に持って帰って飾っている」「このリースかわいいでしょ」などとそれぞれが自分で作った世界にひとつだけの自信作を見せ合い、終了となりました。

島根森林管理署では、今後も地域の方々と連携し、森林環境教育などの取組に積極的に参加・協力してまいります。



出来上がったリースを持って

高知県職員等が試験地見学会で来所されました。

【森林技術・支援センター】

令和6年11月19日（火）、高知県職員等9名が^{かまたに}釜谷国有林のコンテナ大苗の植栽工程と初期成長に係る試験地の見学のために来所されました。

はじめに、森林技術・支援センターの会議室において、前日実施された^{しんもとしげやま}新元重山国有林植栽本数試験地見学の復習、当センターが取り組む森林・林業視察プログラムの紹介、コンテナ大苗の植栽工程と初期成長に係る試験



それぞれの概要説明の様子

の概要の説明を行いました。参加者からは、現在、高知県が取り組んでいる再造林推

進プランについての概要の説明がありました。

その後、小雨が降る肌寒い中での現地見学となりましたが、日程では予定していなかった奥地の現地にも、「ここまで来たのだから時間のある限り全体を把握したい」との要望があり、時間を延長して見学していただきました。

参加者の方々からは「大苗を使用する上でのマニュアル化が出来た方がいいのではないか」「今後、成長していく中での情報が、もっと詳細に知りたい」など様々な意見が出され、とても有意義な時間となりました。

森林技術・支援センターでは、引き続き林業関係者の技術的支援を積極的に行ってまいりますので、見学のご希



現地見学の様子

望等がございましたらお問い合わせください。

「にちなん中国山地林業アカデミーの現地実習」に協力しました。

【鳥取森林管理署】

鳥取森林管理署では、令和6年11月15日（金）、にちなんアカデミー（以下アカデミー）の学生11名と引率者2名が参加した現地実習を国有林の造林地で実施しました。

この実習は、アカデミー設立時にサポートチームとして当署が参画する計画となっており、その協力の一環として令和元年度から実施しています。

アカデミーの引率者と学生達は午前中開催した現地検討会から参加し、引き続き午後のスギコンテナ苗の植付実習を受講しました。



植付実習の様子

学生からは「最初は難しかったが、慣れてくるとスムーズにできるようになった」「植付間隔を調整しながらの作業が難しかった」など、たくさんの感想が寄せられ、学生達の資質・技能の向上の一助になったのではないかと実感しました。

鳥取森林管理署では、今後もアカデミーの活動に協力して、森林・林業の成長産業化を図り「グリーン成長」の実現を担う人材の育成に向けた取組を引き続き行ってまいります。



実習後の振り返りの様子

森林のギャラリー（局庁舎1階）



【技術普及課】

○1月10日（金）～2月4日（火）の展示は、三重県、森林総合研究所 関西支所です。

○ギャラリーの展示内容は下記の局ホームページでお知らせしています。

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/policy/business/sitasimou/gallery/index.html>



【企画調整課、治山課】

○「令和6年能登半島地震・奥能登豪雨」に関する情報を公開しています。

詳しくは下記のホームページをご覧ください。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/kikaku/notohantoujisin240101.html>



【企画調整課】

令和7年度「国有林モニター」の募集について

詳しくは下記のホームページをご覧ください。

https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/kikaku/monitor/7_boshu.html



【技術普及課】

令和6年度 森林・林業交流研究発表会の開催について
令和7年2月4日（火）、令和7年2月5日（水）実施します。

詳しくは下記のホームページをご覧ください。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/press/sidou/241212.html>



花草木

【マンリョウ】

マンリョウ（万両、学名：Ardisia crenata）は、サクラソウ科ヤブコウジ属の常緑小低木です。林内に自生しますが、赤い果実をつけるマンリョウは、果実と常緑の濃緑色の葉を觀賞する植物として親しまれています。

寺社や公園などに庭木として植えられているほか、縁起を担いで同じく赤い実を付けるセンリョウ（千両）と共に正月の花材（切り花）に利用されています。実の大きさはマンリョウの方がセンリョウより大きいです。

鉢植えとしても広く流通していますが、江戸時代から実色が違ったり、葉に斑が入ったり縮れたりするものなど園芸化が進んだ古典園芸植物です。その後、明治に多くの品種が作出され、また昭和初期にも流行しました。



大阪市内のお寺で見つけたマンリョウ

「マンリョウ（万両）」の花言葉は「寿ぎ」「陰徳」

我が署のスタッフ 島根森林管理署

今井 雅治（いまい まさはる）（令和5年度採用）

【現在取り組んでいる仕事は？】

業務グループの資源活用担当として、主に製品生産や素材販売の業務に携わっています。入庁するまで林業に関わってこなかったため、国有林での立木の伐採から集材・造材・運搬・販売までの業務を担当しながら、業務だけでなく地域の林業全般についても学んでいます。

【職場の雰囲気は？】

落ち着いていると思います。たまに冗談を言いながら働いていて、質問もしやすい環境だと思います。

【林野庁の魅力は？】

働く環境という点では、公務員という立場でありながら、大自然をフィールドに仕事ができるというところが魅力だと思います。事務作業のイメージが強い公務員でありながら、自然の中で働けるのは林野庁の魅力だと思います。

業務内容としては、公益的機能の維持・増進を目的とする森林の管理を行う事により、多くの人の生活基盤を支える仕事であるところが魅力だと思います。



森林教室の様子（説明をしている左側が本人）

森林事務所等紹介

高島森林事務所 (滋賀森林管理署)

森林官 末廣 慎 (すえひろ まさき)

滋賀森林管理署高島森林事務所は滋賀県北西部に位置し、管轄区域は高島市及び大津市の一部で管理する国有林の面積は約 4,651ha、官行造林地の面積が約 141ha となっています。日常の業務として、林道の維持管理作業、国有林の巡視、請負事業の監督業務などを行っています。

令和 6 年度には、森林整備事業として、^{にしおおざり}西大切国有林で列状間伐を実施しました。搬出した間伐材は木材市場での委託販売やシステム販売により木材加工業者へ供給され、様々な活用がなされています。



西大切国有林 (生産箇所森林作業道)



キンコウカと木道



キンコウカ (拡大)

滋賀県と福井県境に位置する山田山^{やまだやま}国有林の一部は「三国山湿原植物希少個体群保護林」に指定されており、6月下旬から7月中旬の期間に湿原に伸びる木道からキンコウカの群落を間近に楽しむことができます。

また、森林事務所が位置している滋賀県高島市は観光名所であり、特に県道 287 号線沿いに位置する「メタセコイヤ並木」は一年を通じて多くの観光客が訪れています。延長約 2.4km にわたり植栽されたメタセコイヤ並木は壮大で見るものすべてを魅了します。

機会があれば、皆さんも高島森林事務所にお立ち寄りください。



シリーズ『国有林 最前線！』

斑鳩の里法隆寺古事の森普及啓発イベントの開催について

奈良森林管理事務所

12月5日（木）、令和6年度「斑鳩の里法隆寺古事の森」普及啓発イベントを開催しました。

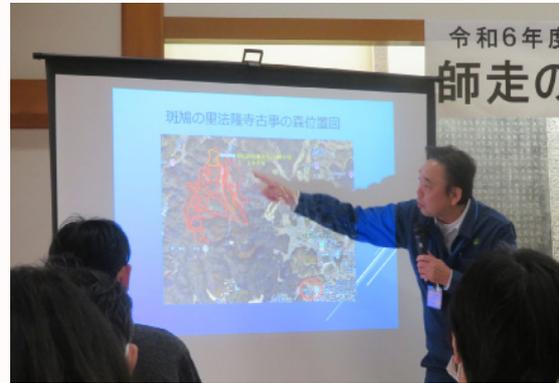
「斑鳩の里法隆寺古事の森」は、歴史的木造建築物の修復・再建に必要な大木を200～400年かけて育成するというこれまでにない超長期にわたる取組であり、その趣旨に賛同した法隆寺や地元企業、NPO法人などの団体が平成17年9月に斑鳩の里法隆寺古事の森育成協議会を設立し、平成18年2月に世界遺産である「法隆寺」のある斑鳩町に所在する野山国有林内にヒノキを植林しました。

奈良森林管理事務所では、育成協議会と連携し、この取り組みを地域の皆様に知っていただくことを目的に、これまで様々な普及啓発イベントを実施しています。

今年度は、「師走の世界遺産法隆寺を訪ねて」と題して、法隆寺でイベントを開催し、一般応募者及び協議会関係者等32名が参加しました。



協議会会長の古谷法隆寺管長の挨拶



「古事の森」の説明をする中井所長

当日は、協議会会長の法隆寺 管長 古谷会長の挨拶に始まり、中井奈良森林管理事務所長から「斑鳩の里法隆寺古事の森」を設定した趣旨や意義について説明がありました。



株式会社鶴工舎の槍鉋の実演

その後、育成協議会の構成団体である株式会社鶴工舎の小川三夫総棟梁から「歴史的建造物と宮大工の伝統技術」というテーマで講演をいただきました。講演では、「古代の職人たちは、多くの血と汗、知恵をだして物づくりをした。その知恵を言葉で伝えたものが知識であり、古代建築は知恵の塊。」などの話や宮大工が使う道具の一つである「槍鉋（やりがんな）」による木の表面仕上げの実演があり、見事な職人技に参加者一同から感嘆の声が上がり

ました。

講演終了後には、小川棟梁の案内で法隆寺の西院伽藍を拝観しました。ここでは、古代の建築物を美しく見せる工夫や技術など、宮大工ならではの解説があり、講演の内容をより深く理解することができ、参加者の皆様も満足の表情で帰路につかれました。当所では、今後も引き続き、育成協議会と連携・協力しながら、古事の森の育成や普及啓発活動を実施してまいります。



イベント後の集合写真